

＜英国栈橋調査の余録＞ブルネル設計のロンドン・パディントン（Paddington）駅

2013 年調査 （執筆担当 八尋明彦）



2013 年の英国栈橋調査において、ヒースロー空港からヒースロー・エクスプレスを使って最初にロンドン市内で降りたターミナルが、パディントン駅である。当駅は、その他にナショナル・レールのブリistol、バース、ウェールズ南部、コーンウォール方面の長距離列車とオックスフォードやロンドン西部の近郊路線を運行するグレート・ウェスタン・レールウェイのターミナルでもある。さらに、ロンドン地下鉄ハマースミス&シティー線、ディストリクト線など4線も乗り入れている。ロンドン北西部最大の鉄道駅である。1854年に開設された駅で、日本最初の鉄道路線（新橋駅から桜木町駅）が開設した1872年と比べると、古い歴史を有している。駅舎の設計者は、駅構内に彫像が設置されているイザムバード・キングダム・ブルネル。3連（それぞれが20.7m、31, 2m、21, 3mで延長213m）の半円形ガラス屋根が特徴であり、今でも当時の面影を残している*。現在でも、鉄道結節点として多くの乗降客で賑わっている。



＜19世紀を代表する偉大な技術者イザムバード・キングダム・ブルネル（Isambard Kingdom Brunel）＞

1806年に有名な技術者サー・マーク・イザムバード・ブルネルの息子として英国ポーツマスで生まれた。2002年、BBCが行った「100名の最も偉大な英国人」投票で第2位となった。1833年にグレート・ウェスタン鉄道の技師となり、橋梁、トンネル、駅舎を建設した。同鉄道に安定性と乗客の乗り心地の改善のために2140mmの広軌を採用した。優秀なデザインの鉄道車両や鉄道施設などに贈呈されるブルネル賞は彼に由来する*。

* Wikipedia より

＜完＞



構内にあるブルネルの彫像